



行發日七十二月三

前田醫院 院長 前田清美 植田町電話二二四

特別歌壇

目禮

小山田 滋

- 怪我人の擔架にしばし目禮を送る坑夫ありつゝましき朝
傷口に針をあてゆく外科醫師の手術衣白し人
は歌せる
複雑なる人の目色を一瞬にあつめて朝のけは
しき空氣
貧弱の告別式に列なりてあはれなる世にうた
れつつある
あはたゞしく梅散りすぎて炭鑛の春何げなく
おちつかなく
東京へ夜行列車の地ひゞきの驟然としてゆく
を眺みる
黄の花にかすかに思ひ出のある心地する陽
のぬりかな

春蘭

島田 忠夫

- 春蘭の花がすがすがしさにづらふ乙女が山に掘
りしたまもの
山に住みて歌作をとめ吾がために春蘭を掘
りて與れたまひたり
春蘭の花見てあればみちのくの高久置置の春
をおもひぬ
すがすがしく咲く春蘭の花みれば曉霞先生の
思はゆるかも
清しくも老ひ給ひつる先生と春蘭の花の香る
ごとくに
春蘭を日なたに置きぬわが前に歌を持て來し
乙女は居れ
頬あかき乙女はまだ世づかねば蘭の蕾の如
く思はゆ
をどめ子が残りゆきける蘭の花幼き歌といつ
れよろしき
曉霞先生に白き口ひげまじららし朝ゆふべに
吾が思ふなり

青い灯

八幡 秋月

僕にはかい?と
ツ、ンと皮肉な笑を口許して再び床の上に身を落し
て黙りこくつて仕舞つた
おそろしく信用のない男
なんだね、僕?
あや子はもうそれに答へ
くたらの問答に何時まで
下手にうつてゐるのは、だ

潮聲會同人 故勝見萬袋氏追悼句抄

三月十七日例會席上披露

吹きもどす風もあかし歸る雁
ゆくあとの空さめくと雨の雁
俣やきさらき寒う眼に浮ぶ
月落ちて影なき梅の香りかな

葬儀の日

文 狂

喪の袖にそくや春の雨さむき
春寒し棺の蓋しむ釘の音
戀る雁聲も聞かせず歸りけり
時ならぬ風散るや梅の花
西風吹きてふも人もなし鉢の風
さびしき見る人もなし鉢の梅
たましに梅を手向くる句會かな
梅老樹ふと倒れけり春の風
ささらきや辭世もなくて逝く君が
梅櫻いづれはかなき 春の果
嘔無常夕景の鐘聲む
春の雪御墓の鳥今日を哭く
今日の庭に御霊よはれ春悲し

地平線

華 岳

ぼとけまでこみあげてく
る
ぼとけまでこみあげてく
る
ぼとけまでこみあげてく
る
ぼとけまでこみあげてく
る

春の雷

久保田 武

春の雷
春の雷
春の雷
春の雷

正鶴を得る

生 田 蝶介

世をあげて經濟戦線に武
装をこらし、互に火蓋を切
らんとするの矢先、無上
正鶴を氣取るの考へも
ではあるが、物質的慾望は
無限にして強いて之を實現
せんとすれば競争愈々げ
一着を占め得る者は一
人にして九十九人はどうし
ても榮冠を得る餘地がない
科學文明隆々として興る
二十世紀に生を享け乍ら物
質獲得の爲に互に苦しい人
生を送る事、果して生れた
者の本意義であらうか、法
則は是非も無い。併し平和
の解決こそ我等の採るべき
最善の方法なりと信ずる。

東洋城

生 田 蝶介

あさみどり庭草萌ゆる
プランコを、吹き抜け
て風さやかにけり
鳥交る隣の屋根の霞む
なり

學藝消息

東 洋 城

ニケモモ創刊記念懇親會
平町出身島田忠夫、主宰
短歌雜誌「ニケモモ」創刊
記念懇親會は四月二日
午後四時より水戸市商工
會館食堂に開催。甲斐
莊事務部長その他來賓の
祝詞後、卓辭はニケモモ
同人沼田成彦(財川校長)
同人飯塚芳葉大尉(水戸
聯隊現役)同人斎藤純蔵
(月山寺住職)諸氏及び島
田氏の短歌講演の管。
猪ヶケモモ職員は左記
十氏に決定した。
甲斐莊正順、關孤圓、高
久晚、市原里川、赤尾
藤吉郎、福地幸彦、山田
靜英、内藤宗雄、小泉春
高島秀吉(順不同)
おまへは短歌會
いはらき新聞社主催にて
四月二日午前十時より茨
城縣下聯合會館開演、席
題一首出詠の後、懇談す
る予定。會費三十錢會場
いはらき新聞社記念館。
幹事大高富久太郎、島田
忠夫、津川公治、町山正
利、友常幸一、丹四郎、
森田泰秋。

お蘭陀お蝶

渡邊 蝶作

お蝶も徳藏も左右から摺
寄つて耳をたてた、こが
進退を決すべき肝腎のボー
ント見になるか佛になるか
の分れ目である
「恰と去年の話だが、その
板本つてお蝶が道場に通
つてゐる時分、お蝶さまは如
何した血の加減でかボーお
出なすつたてえ譯よ、そり
やア惚れるも無理はねえさ
此方們的やうなストロド
ソコイのトツビキ面ア選
つてきり、と緊つた男振り
の程は好い趣味はなし武藝
は閉門ちつきよ物の十日も
が先になつて古參のお弟子
アハハハハハハハハハハ
を目的に先生の代古を語つ
するやうになつた腕前だつ
せう、こんな偉いお方の女
房になつたらどんなにか肩
身が廣くなるだらうと思ふ

お蘭陀お蝶

渡邊 蝶作

お蝶も徳藏も左右から摺
寄つて耳をたてた、こが
進退を決すべき肝腎のボー
ント見になるか佛になるか
の分れ目である
「恰と去年の話だが、その
板本つてお蝶が道場に通
つてゐる時分、お蝶さまは如
何した血の加減でかボーお
出なすつたてえ譯よ、そり
やア惚れるも無理はねえさ
此方們的やうなストロド
ソコイのトツビキ面ア選
つてきり、と緊つた男振り
の程は好い趣味はなし武藝
は閉門ちつきよ物の十日も
が先になつて古參のお弟子
アハハハハハハハハハハ
を目的に先生の代古を語つ
するやうになつた腕前だつ
せう、こんな偉いお方の女
房になつたらどんなにか肩
身が廣くなるだらうと思ふ

お蘭陀お蝶

渡邊 蝶作

お蝶も徳藏も左右から摺
寄つて耳をたてた、こが
進退を決すべき肝腎のボー
ント見になるか佛になるか
の分れ目である
「恰と去年の話だが、その
板本つてお蝶が道場に通
つてゐる時分、お蝶さまは如
何した血の加減でかボーお
出なすつたてえ譯よ、そり
やア惚れるも無理はねえさ
此方們的やうなストロド
ソコイのトツビキ面ア選
つてきり、と緊つた男振り
の程は好い趣味はなし武藝
は閉門ちつきよ物の十日も
が先になつて古參のお弟子
アハハハハハハハハハハ
を目的に先生の代古を語つ
するやうになつた腕前だつ
せう、こんな偉いお方の女
房になつたらどんなにか肩
身が廣くなるだらうと思ふ

お蘭陀お蝶

渡邊 蝶作

お蝶も徳藏も左右から摺
寄つて耳をたてた、こが
進退を決すべき肝腎のボー
ント見になるか佛になるか
の分れ目である
「恰と去年の話だが、その
板本つてお蝶が道場に通
つてゐる時分、お蝶さまは如
何した血の加減でかボーお
出なすつたてえ譯よ、そり
やア惚れるも無理はねえさ
此方們的やうなストロド
ソコイのトツビキ面ア選
つてきり、と緊つた男振り
の程は好い趣味はなし武藝
は閉門ちつきよ物の十日も
が先になつて古參のお弟子
アハハハハハハハハハハ
を目的に先生の代古を語つ
するやうになつた腕前だつ
せう、こんな偉いお方の女
房になつたらどんなにか肩
身が廣くなるだらうと思ふ

お蘭陀お蝶

渡邊 蝶作

お蝶も徳藏も左右から摺
寄つて耳をたてた、こが
進退を決すべき肝腎のボー
ント見になるか佛になるか
の分れ目である
「恰と去年の話だが、その
板本つてお蝶が道場に通
つてゐる時分、お蝶さまは如
何した血の加減でかボーお
出なすつたてえ譯よ、そり
やア惚れるも無理はねえさ
此方們的やうなストロド
ソコイのトツビキ面ア選
つてきり、と緊つた男振り
の程は好い趣味はなし武藝
は閉門ちつきよ物の十日も
が先になつて古參のお弟子
アハハハハハハハハハハ
を目的に先生の代古を語つ
するやうになつた腕前だつ
せう、こんな偉いお方の女
房になつたらどんなにか肩
身が廣くなるだらうと思ふ

お蘭陀お蝶

渡邊 蝶作

お蝶も徳藏も左右から摺
寄つて耳をたてた、こが
進退を決すべき肝腎のボー
ント見になるか佛になるか
の分れ目である
「恰と去年の話だが、その
板本つてお蝶が道場に通
つてゐる時分、お蝶さまは如
何した血の加減でかボーお
出なすつたてえ譯よ、そり
やア惚れるも無理はねえさ
此方們的やうなストロド
ソコイのトツビキ面ア選
つてきり、と緊つた男振り
の程は好い趣味はなし武藝
は閉門ちつきよ物の十日も
が先になつて古參のお弟子
アハハハハハハハハハハ
を目的に先生の代古を語つ
するやうになつた腕前だつ
せう、こんな偉いお方の女
房になつたらどんなにか肩
身が廣くなるだらうと思ふ

お蘭陀お蝶

渡邊 蝶作

お蝶も徳藏も左右から摺
寄つて耳をたてた、こが
進退を決すべき肝腎のボー
ント見になるか佛になるか
の分れ目である
「恰と去年の話だが、その
板本つてお蝶が道場に通
つてゐる時分、お蝶さまは如
何した血の加減でかボーお
出なすつたてえ譯よ、そり
やア惚れるも無理はねえさ
此方們的やうなストロド
ソコイのトツビキ面ア選
つてきり、と緊つた男振り
の程は好い趣味はなし武藝
は閉門ちつきよ物の十日も
が先になつて古參のお弟子
アハハハハハハハハハハ
を目的に先生の代古を語つ
するやうになつた腕前だつ
せう、こんな偉いお方の女
房になつたらどんなにか肩
身が廣くなるだらうと思ふ

お蘭陀お蝶

渡邊 蝶作

お蝶も徳藏も左右から摺
寄つて耳をたてた、こが
進退を決すべき肝腎のボー
ント見になるか佛になるか
の分れ目である
「恰と去年の話だが、その
板本つてお蝶が道場に通
つてゐる時分、お蝶さまは如
何した血の加減でかボーお
出なすつたてえ譯よ、そり
やア惚れるも無理はねえさ
此方們的やうなストロド
ソコイのトツビキ面ア選
つてきり、と緊つた男振り
の程は好い趣味はなし武藝
は閉門ちつきよ物の十日も
が先になつて古參のお弟子
アハハハハハハハハハハ
を目的に先生の代古を語つ
するやうになつた腕前だつ
せう、こんな偉いお方の女
房になつたらどんなにか肩
身が廣くなるだらうと思ふ



お蝶も徳藏も左右から摺寄つて耳をたてた、こが進退を決すべき肝腎のボーント見になるか佛になるかの分れ目である

學生カバン ポーシカバン 責任/持テル丈夫ナ品

生徒募集 第一學年 五十名 第二學年 補欠若干名 第三學年 五十名

光輝ある歴史 堅實なる學風 磐城佑賢學舎

入學の絶好期 洋裁を知らねば恥の時代となり ました。時代に添へた、スピーデ

私立磐城青年學校 創立明治四十年 規則書申込次第進呈

増舎校 第五學年 第一學年 壹百名 第二學年 若千名

おひな人形陳列會 東京、埼玉各地一流人形師の作品を 賑々しく陳列致しました。是非一度

優秀品て値の安い フクダヤ際物部 渡部外科

渡部外科 小兒科 渡部義夫

観櫻デー設定
世に著聞する借葉園の梅
花が水戸人の有する誇りの
一つであるならば今年も亦
遠からずして笑まんとしつ
つある我が松ケ岡、新川端
の櫻は吾人町民にとつて
備かに或る意味に於ての誇
持たるを失はない。而も春
光煦たる麗日なればばいざ
知らず生憎にして早春の大
氣水の如く冷かに風簾簾々
たる案然の千波湖近く寒さ
に慄え乍ら梅を眺むるの心
境は風雅は即ち風雅かも知
れぬが決して休養の一日の
より良き利用法とは断じて難
く往々にして却て獨鬱靜思
の優れるに若からざる場合
も少からざるに反して少く
も櫻花爛漫の季節に入るや
人は氣も心も浮々として彼
の清楚墨縷の如き寒梅に水
涕を吸ひて之を以て所謂雅
獨往の境地なりとして敢て
自ら樂しむればこそは全然
内容に於て異つて居る。
之れ即ち町民の櫻が長勝自
然の點に於て幾分規模の及
ばざるのありとするも尙
人人生行樂の對象として之
効果的に評價し決して水戸
の梅に勝るとも劣らざるを
自信する所以である。由來
濃艶舞妓の如き櫻は枯淡禪
僧の如き寒梅に較べその人
々の歡樂の興趣を高揚せし
むるの點を於て季節的の數
倍の興味を有するに拘らず
水戸の梅が常に平の櫻を以
て櫻の第一方面から年々多
數の探勝客を吸引しつゝあ
るは單に歴史的に觀て數多
の先輩たる許りてなく比年
に大に勢動能率を増進せし
むるの點に於て吾人は町民
のこの意味に於て吾人は町
今年の迎客計劃を以て衷心
多とするものであるが此際
取て先進の水戸を模倣し適
當の期間を下して特に所謂
觀櫻デーを設定せん事を熱
望して己まない。蓋し常に
群衆心理に支配する公衆
は之際取て日曜日と呼ばす
更めて觀櫻デーと名稱す
る事によつてより多くお花見
の草葉意識を強調し得べき
極めて微妙なる關係に在る
を信するからである。敢て
一言す。

催花の雨しきる今日
一齊に入學試験開始

二十名の附添ひで大混雑
警中高女平商の入學試験は半終了高女は算術、國語、
事堂に開帳、來月十日の患手で來月二十一日から一週
今二十七日一齊に開始した口頭試問平商は國、算、體
現算典八百圓を附議し全開コートをを行ふが春のソ
雨中に拘らず、附添者二で明二十八日は高女は全科
國語町村長會會長野縣上伊那野縣長長野縣上伊那野
千餘りに達し平商の降車は目に就て平商は口頭試問
七百名を算し、冷たい控室のみを行ふが發表は高女、
陣取つて試験の終るまで歸警中三十日正午、平商二十
しつとせざる案に午後九時
が高女、平商共に午後〇時

警炭町田坑變災
遭難者第七回忌

けふ内郷村瑞寶寺で
一同追憶の涙に咽ぶ
警炭では今二十七日が恰もが原原長以下關係者多
警炭では今二十七日が恰もが原原長以下關係者多
警炭では今二十七日が恰もが原原長以下關係者多

入山主婦會創設

あす盛大に發會式舉行
濃艶舞妓の如き櫻は枯淡禪
僧の如き寒梅に較べその人
々の歡樂の興趣を高揚せし
むるの點を於て季節的の數
倍の興味を有するに拘らず
水戸の梅が常に平の櫻を以
て櫻の第一方面から年々多
數の探勝客を吸引しつゝあ
るは單に歴史的に觀て數多
の先輩たる許りてなく比年
に大に勢動能率を増進せし
むるの點に於て吾人は町民
のこの意味に於て吾人は町
今年の迎客計劃を以て衷心
多とするものであるが此際
取て先進の水戸を模倣し適
當の期間を下して特に所謂
觀櫻デーを設定せん事を熱
望して己まない。蓋し常に
群衆心理に支配する公衆
は之際取て日曜日と呼ばす
更めて觀櫻デーと名稱す
る事によつてより多くお花見
の草葉意識を強調し得べき
極めて微妙なる關係に在る
を信するからである。敢て
一言す。

郡教育會豫算

基本完成の結果大減
郡教育會幹部會は昨二十
六日午後二時から平町會
議室に開帳、豫算三千二百
二十三圓を可決したが從來
一ヶ年二千圓に積立て、來
其基本金が豫定額に達した
た旅費、同演三都總會は
來月二十四日四倉町旅費館
開き縣大會の提出議案を協
議する

町村長支會

忠魂祭典費決議
七十九八十四圓の激減で
業計額は三十ヶ年勤續會
業計額は三十ヶ年勤續會
業計額は三十ヶ年勤續會

今井名左翼

警中に聘請
警中野球部コーチに聘請
早大を出た今井氏に決定
たが同氏は定評ある名左翼

四等俵八圓十三錢

米穀共同販賣前回同値
大浦農會倉庫一昨二十五日
の米穀共同販賣は出荷百七
の米穀共同販賣は出荷百七
の米穀共同販賣は出荷百七

手長小僧薰陶園へ

平署やつと重荷を卸す
四十數軒を荒らした稀代り
の盗兒として平署で待て餘
して居た南町生れ辰八二男
今二十七日中村町の薫陶園
へ送られた

草野局電話

三十一日から開始
草野村郵便局では三十一
日からの電話事務を開始す
事となり目下工事を急いで
行はれる村會議員改選を
農繁期の爲め來月上旬に繰

江名濱の小鷹丸

出漁先で遭難
救援船が曳いて歸る
江名町中ノ作一九、鈴木權
三郎所有漁船小鷹丸(一九九
ト)に鈴木権吉外七名が(二)
乗込み宮城縣豊港へ出漁の
途中二十五日午後九時三

女將殺

警中入學者
警中入學者は
警中入學者は

題問験試

左の文(高女)
(一) (37+24) x 7 =
(二) 1000 - 24 =
(三) 1000 - 24 =

成田山大護摩修行

團體募集
三月廿日
成田 井上貞治郎
三月廿日

部者民が發見、乗組員全
を救助して上陸させ船体
は二十六日早朝から部者民
内郷村宮吉吉二男遊藝市
(三)は數年前親の止める
を肯かす都に憤れて上京し
たが最近都の神經衰弱に
罹つたので昨二十五日歸
郷したが親は北海道へ移
轉したあとで寄るべ無く昨
二十六日平署へ保護方を願
ひ出た

煙草小賣人 水戸煙
草小賣人 水戸煙
草小賣人 水戸煙

赤井で物置を焼く
赤井村赤井井畑五五八小
原柴草方物置から二十五日
午後四時半頃物置一枚焼
を全燒して火化した、損
全焼して火化した、損

左の文中の片かなを漢字
に直してごさい。
自治のセイシンとは協同
イツして自ら地方コウ
キョウの事に當りセイイ
其のダンタイの爲に力を
つくとごさい。

成田山大護摩修行
團體募集
三月廿日
成田 井上貞治郎
三月廿日

木炭代用の上の豆
經濟の徳用
豆炭
平野 氷 店
矢吹 炭炭商店
阿部 石炭商店